



地域住民と一緒に芝生の苗を植える児童たち

けがをしない運動場に向けて

有明小 芝の試し植え

有明小学校で6月26日、運動場の芝生化に向けた試し植えがありました。同校では芝生用の水に塩分が含まれる地下水の使用を検討していますが、生育に問題がないかを試すために行ったもの。全校生徒55人が地域の人たちから苗の植え方を教わりながら、運動場の一部の200㎡に50cm間隔で800株の苗を植えました。同校4年生の甲斐田優香さんは「芝生が育って、みんながけがをしない運動場になってほしい」と話しました。

歌や踊りで会場を魅了

柳川文化協会 第4回芸能祭

7月1日、柳川文化協会は、市民会館大ホールで第4回芸能祭を催しました。芸能祭は平成21年に同協会創立40周年を記念して始まり、会員同士の親睦や練習の成果を披露する場として毎年開かれています。ステージでは、吟詠やフラダンス、日本舞踊などが披露され、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。同協会の立花民雄会長は「どの演目も日ごろの練習の成果が出ていました」と感想を話しました。



ステージでは華麗なダンスや舞が披露された

市民のひろば

身近な話題などお知らせください！
情報をお待ちしています



津村OB会長（右から2人目）らに市長が激励

永遠の高校球児たちが夢の舞台へ 伝習館高校野球部OB会がマスターズ甲子園出場

県立伝習館高校野球部OB会は、甲子園球場で11月10日、11日に行われるマスターズ甲子園2012に県代表として出場します。マスターズ甲子園は、元高校球児の同窓会チームが憧れの甲子園球場を目指す大会です。今大会の対象地区で勝ち上がった16チームが出場。同OB会は5月の県予選で優勝し、大会出場を決めました。6月26日に、同OB会の津村生二会長、内村末治前会長、阿志賀浩一主将が金子市長に出場を報告。津村会長は「県代表として頑張ってきます」と意気込みを語りました。

保護者と一緒に災害に備える

豊原小 児童引き渡し訓練

豊原小学校は7月3日、市内の小中学校で初めての児童引き渡し訓練を実施しました。これは、地震の発生を想定し、保護者に緊急メールを配信して学校まで児童を迎えに来てもらう東日本大震災時の対応を参考にした訓練。午後4時過ぎに緊急メールが配信されると、次々と保護者が学校に駆けつけました。引き渡し場所では、担任の教諭が何時に誰が児童を迎えに来たかを引き渡しカードに記入。初めての試みでしたが、保護者の協力により、訓練はスムーズに進みました。



迎えに来た保護者と児童を確認して引き渡された

童謡の日にあわせてコンサート

白秋のふるさと柳川 童謡の日記念コンサート

童謡の日の7月1日、北原白秋記念館で童謡の日記念コンサートが催されました。童謡の日は、大正7年のこの日、児童雑誌「赤い鳥」が創刊されたことを記念して定められました。北原白秋も赤い鳥に多くの童謡を発表したことから、没後70年に当たる今年、地元でも何かできないかと、有志らが実行委員会を作りコンサートを企画。市内外から8団体が参加し、白秋が作詞した童謡の合唱や演奏を披露しました。会場には約70人が訪れ、曲に合わせて口ずさむ姿も見受けられました。



市外の団体も呼びかけに賛同して出演した

俳句

とうとうと流れし大河エツの舟

古賀俊郎（新外町）

- 亡き母を偲びて紫陽花色の雨
- 紫陽花を残して川の掃除済む
- 渡し跡鱗の匂へる大師像
- 紫陽花を愛でて頂くお茶の席
- 川下り岸辺に映える濃紫陽花
- 筑後川鱗解禁に胸踊る
- 軒下の紫陽花が雨をほしがる
- 紫陽花や杖もつ人と小半時
- あじさいの日毎に彩の微妙なり
- 紫陽花や少し弱気な花も咲き
- 紫陽花が海を見ている坂の街
- えつの味弘法大師知らずして
- 鱗跳ねる夫婦綱引く筑後川
- 紫陽花を見つめて心若くなり
- 鐘の音や紫陽花寺は傘の並み
- 濃紫陽花厨の窓を藍に染め
- 風呂場より見える紫陽花白めなり
- 川風に吹かれて食べる鱗料理
- 亡き義母の遺し紫陽花雨に映え
- 梅寄由美子（七ツ家）
- 古賀治美（南浜武）
- 金子弘子（京町）
- 廣松ヨシエ（蒲生）
- 野口美恵子（上宮永町）
- 藤吉トシ子（佃町）
- 武藤博文（上宮永町）
- 熊丸きく子（蒲生）
- 池田美幸（佃町）
- 森永孝英（七ツ家）
- 西山幸子（垂見）
- 古賀幸子（横山町）
- 梅崎千尋（七ツ家）
- 花島忠常（南浜武）
- 徳永智有（徳益）
- 坂田信幸（鷹ノ尾）
- 谷 祥子（柳町）
- 大橋弘茂（百町）
- 田中清美（中島）

【句評】 稲畑汀子先生が大川市の中村市長さんに招かれ、エツ狩を楽しまれて久しい。その時の句に「待つといふこと鱗網を流しては」がある。数年がたち大川市若津の児童公園に先生の句碑が建立され、30余年の月日が流れた。これを機に、鱗が歳時記昭和61年版に登録されて公認に。
今月の俊郎さんの句、素直なとらえ方がいかに大事かを教えてくれる一句となった。

◆選者の句

鬼郎

俳句を募集しています。選者は大曲鬼郎さん。8月の課題は「葎切」「月見草」です。入選作品は8月15日号に掲載します。●応募方法 俳句と明記し、自作、未発表の作品（※1人3句以内）に、住所、氏名、電話番号を書いて、ハガキかファクスまたは直接、柳川庁舎企画課広報広聴係（☎77・8425、FAX74・5520）へ、7月31日（※必着）までにお送りください。